

令和4年4月26日



国立研究開発法人森林研究・整備機構

森林総合研究所林木育種センター関西育種場

金剛山山頂を彩る遅咲きの美桜

「金剛ざくら」の後継樹が里帰り

りんぼく
— 林木遺伝子銀行 110 番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組 —

ポイント

金剛山（奈良県御所市・大阪府千早赤阪村）に生える「金剛ざくら」の後継樹の苗木が、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター^{りんぼく}関西育種場から里帰りします。

概要

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター関西育種場（岡山県勝田郡勝央町）では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業では、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を行うとともに、事業の一環として、要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を行っています。

今回は、葛木神社 宮司から増殖の要請を受けた「金剛ざくら」の後継樹として、つぎ木によって増殖し育てた苗木が里帰りします。

○里帰り日時及び場所 日 時：令和4年5月3日（火曜日）11時00分～（雨天決行）

場 所：奈良県御所市高天476 葛木神社

○里帰りする苗木本数 つぎ木増殖苗 2本

問い合わせ先

○国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター
関西育種場（平日 8:30～17:15）

事業責任者：遺伝資源管理課 課長 竹田 宣明
担当者： 収集管理係 竹中 拓馬
広報担当者：連絡調整課 連絡調整係長 林 勝洋

Tel：0868-38-5138 Fax：0868-38-5139

○葛木神社 宮司 葛城 裕
Tel：0721-74-0005 Fax：0721-74-0101

○千早赤阪村（平日 9:00～17:30）

担 当 者：観光産業振興課 池田 浩明

Tel：0721-72-0081（代表） Fax：0721-72-1880

本資料は、大阪府政記者クラブ・河南記者クラブ・奈良県文化教育記者クラブ・大和高田市政記者クラブに配布しています。

背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。

このため、林木育種センターでは、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱しているこれら樹木の後継樹を増殖し、里帰りを行う取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。これまでに、全国から 320 件の要請があり、243 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました（令和 3 年度末現在）。後継樹は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていることから二代目として大きく成長することが期待されます。

内容

今回里帰りする後継樹の親木は、大阪府・奈良県の県境にそびえる金剛生駒紀泉国定公園の主峰である金剛山（1125m）に生える「金剛ざくら」です。金剛ざくらは、頂上付近の国見城趾にあり、5 月に満開となる花はうすみどりで、多くの登山客に親しまれています。

しかし、樹齢 100 年を超え、近年は花の数も少なくなって樹勢に衰えが見られたことから、後継樹を希望された葛木神社宮司 葛城氏が千早赤阪村役場に相談し、林木遺伝子銀行 110 番について紹介され、令和 2 年 5 月に関西育種場へ利用申請をしました。

関西育種場の職員が令和 3 年 1 月に枝を採取し、同年 3 月につぎ木による増殖を行いました。しかし、「金剛ざくら」の種類が不明だったため、オオシマザクラ・エドヒガン・ヤマザクラの 3 つの異なるサクラの台木を用意してつぎ木したところ、ヤマザクラの台木につぎ木したもののみが活着しました。その後順調に生育し、屋外に植栽しても生育できる見込みとなった 2 本の苗木がこの度里帰りすることになりました。

図、表、写真等



金剛ざくらから枝を採取



つぎ木活着後



後継樹の苗木